

1章 まえがき

小笠原諸島の福德丘ノ場の噴火により発生した大量の軽石が鹿児島県の南西諸島海域に漂流・漂着し、島嶼圏の生活や海洋環境に悪影響を及ぼしている。地域の大学として、軽石の漂流と漂着状況の調査を行うとともに、軽石付着成分の化学的な分析による安全性の確認や地球科学（火山学）な分析を行う事は学術的にも重要である。また、漂流・漂着した軽石を天然資源としてとらえ、その有効活用を図るための予備データの蓄積も重要である。従って、鹿児島大学では企画・社会連携担当の岩井理事を代表者に軽石 WG を設置し、以下に示す分担者により調査並びに研究を進展することにした。なお、南西諸島海域ではこれまで様々な物質・物体の漂流・漂着問題に直面しており、今後も同様な問題は継続するものと思われる。従って、離島沿岸や港湾等における軽石の漂流および漂着状況を俯瞰的かつ客観的に把握し、その予測技術および対応手法の確立を検討することは、将来的な社会貢献ともなる。加えて、南西諸島海域での漂流問題は、黒潮を介して沖縄から鹿児島県の離島海域、そして、九州東岸、四国南岸、紀伊半島沿岸、遠州灘海域、駿河湾海域、そして、東京湾・房総半島沿岸海域に移流拡散する国家的な問題となるために、漂流物が東シナ海から太平洋に流入するキーポイント的な経路となる鹿児島県沿岸での漂流・漂着物の調査・評価・予測技術や科学的知見は、早急に整備しておかなければならない課題の一つである。そのために、鹿児島大学内の各部局の力を結集し軽石の漂流・漂着問題に対応することにした。

表－1 鹿児島大学軽石 WG の体制

氏名・所属	分担内容
岩井理事（企画・社会連携担当）	総括
加古准教授（理工学研究科）：	軽石漂流数値シミュレーション
松井教授（教育学部）：	漂着軽石の特性
富安教授（環境安全センター）：	軽石から溶出する成分の分析
河合教授（国際島嶼教育研究センター）：	奄美群島での軽石漂着および底生生物への影響調査
西教授（水産学部）：	事務局 + 軽石漂流・漂着調査



写真－1 沿岸域で漂流・漂着している軽石